

表1 愛知県内の特異な地形・地質

番号	地域名(名称)	所在地	特異な状況
1	木曽川河川敷	一宮市・稻沢市	イタセンバラの生息可能な河川敷
2	蓮華寺の自然堤防	あま市(旧海部郡美和町)	自然堤防の名残りと見られる小丘 (標高 11.8m)
3	木曽川河床(日本ライン)	犬山市	中・古生層の好露頭
4	善師野の化石	犬山市	メタセコイアなど豊富な植物化石の産地
5	熊野神社の五枚岩	小牧市	県指定(1960年)天然記念物、花崗岩の方状節理
6	庄内川河床(定光寺)	春日井市・瀬戸市	中・古生層の好露頭
7	水野川の目鼻石	瀬戸市	人の目鼻のように造形されたチャート
8	岩屋堂公園	同上	花崗岩の方状節理
9	八事層(東部丘陵)	名古屋市	不整合、紡錘虫を含むチャート礫
10	大褶曲	知多郡美浜町	師崎層群の褶曲
11	つぶて浦	知多郡南知多町	領家變成岩の巨礫
12	砂岩脈	同上	地震の化石とも言われる砂岩の岩脈
13	日間賀島	同上	師崎層群の地層と化石の産地
14	猿投山の球状花崗岩	豊田市	国指定(1931年)天然記念物、断面が菊花状を呈する花崗岩
15	猿投一境川断層	同上	上盤が花崗岩、下盤が矢田川累層からなる逆断層
16	八ツ面山	西尾市	俗にキララという雲母の産地
17	青鳥山	西尾市(旧幡豆郡吉良町・幡豆町)	典型的なハンレイ岩と希元素鉱物の産地
18	佐久島	西尾市(旧幡豆郡一色町)	層間褶曲とコダイアマモなど化石の産地
19	三河地震による地震断層	西尾市(旧額田郡幸田町)	県指定(1975年)天然記念物、深溝断層の一部
20	牛乗山の巨礫	岡崎市	山頂部に散在する水磨された巨礫
21	玄武岩(三国山)	豊田市	県指定(1955年)天然記念物、俗に亀ノ甲石という
22	茶臼山	北設楽郡豊根村	本県最高峰(標高1415m)
23	天狗棚	北設楽郡設楽町	基底礫岩、安山岩、ブッカイト
24	白鳥山	同上	領家變成岩の晶洞と水晶
25	津具溜淵	同上	大入川と鴨山川との河川争奪
26	柴石峠	北設楽郡東栄町	植物化石の産地
27	作手礫岩	新城市	古流系を物語る礫岩層
28	乳岩及び乳岩狭	同上	国指定(1934年)天然記念物・名勝
29	大島川渓谷	同上	溶結凝灰岩、金武石、火山豆石
30	鳳来寺山	同上	国指定(1931年)名勝・天然記念物
31	馬背岩	同上	国指定(1934年)天然記念物、宇連川河床の安山岩岩脈
32	阿寺の七滝	同上	国指定(1934年)名勝・天然記念物
33	本宮山	豊川市	珪線石雲母片麻岩
34	中央構造線	新城市	上盤が花崗岩、下盤が三波川變成岩からなる大断層
35	新城桜淵	同上	蜂の巣岩と呼ばれる石灰岩の谷壁
36	吉祥山	同上	角閃石片岩、塩基性火山碎屑岩
37	石巻山	豊橋市	石灰岩特有の地形
38	高師小僧	同上	県指定(1957年)天然記念物、管状の褐鉄鉱
39	高塚サンドスキー場	同上	海食崖と砂丘
40	伊良湖岬	田原市	岬地形と日出の石門
41	大潟洲	同上	沿岸流によって形成された砂嘴(嘴はくぢばしの意)
42	鸚鵡石	同上	チャートの断層鏡肌
43	高松の化石	同上	豊富な貝化石の産地

(資料)「愛知県の自然環境2000」(2000年3月発行)

表2 愛知県の森林面積

区分			面積(ha)	構成比(%)	
国有林			11,383	5.2	
民有林	地域森林計画対象林	立木地	針葉樹	130,464	60.0
			広葉樹	426	0.2
			小計	130,890	60.2
		天然林	針葉樹	13,290	6.1
			広葉樹	56,438	25.9
			小計	69,728	32.1
		計		200,619	92.2
		竹林		2,298	1.1
		その他		2,655	1.2
		計		205,572	94.5
地域森林計画対象外森林			546	0.3	
合計			217,502	100.0	

(注) 2025年3月末現在。単位未満を四捨五入したため、内訳と計は必ずしも一致しない。

(資料) 農林基盤局

表3 愛知県内の国定公園及び県立自然公園別面積

公園名 (指定年月日)	区域面積 (ha)	特別保護地区 (ha)	第1種～第3種特別地域 (ha)	普通地域 (ha)	所在市町村名
国定公園	三河湾 (1958.4.10)	9,457	20 (0.2%)	8,549 (90.4%)	888 (9.4%)
	飛騨木曽川 (1964.3.3)	3,661	64 (1.7%)	2,962 (80.9%)	635 (17.4%)
	天竜奥三河 (1969.1.10)	14,959	121 (0.8%)	14,689 (98.2%)	149 (1.0%)
	愛知高原 (1970.12.28)	21,740	— (0.0%)	20,153 (92.7%)	1,587 (7.3%)
計 (%)		49,817	205 (0.4%)	46,353 (93.0%)	3,259 (6.5%)
県立自然公園	渥美半島 (1968.5.1)	12,556	— (0.0%)	1 (0.0%)	12,555 (100.0%)
	南知多 (1968.5.1)	8,649	— (0.0%)	— (0.0%)	8,649 (100.0%)
	段戸高原 (1969.3.14)	3,781	— (0.0%)	3,781 (100.0%)	— (0.0%)
	振草渓谷 (1969.3.14)	2,198	— (0.0%)	2,000 (91.0%)	198 (9.0%)
	本宮山 (1969.3.14)	7,302	— (0.0%)	6,374 (87.3%)	928 (12.7%)
	桜淵 (1969.3.14)	2,517	— (0.0%)	1,806 (71.8%)	711 (28.2%)
	石巻山多米 (1969.3.14)	2,061	— (0.0%)	2,061 (100.0%)	— (0.0%)
	計 (%)	39,064	— (0.0%)	16,023 (41.0%)	23,041 (59.0%)
合計		88,881	205	62,376	26,300
21市町村					

(注) 1 2025年3月末現在のデータ。

- 2 区域面積は、陸域面積を示している。三河湾国定公園については、陸域の他に特別地域地先1kmの海域が普通地域になっている。
- 3 自然公園の総面積は県土面積517,306haの17.2%を占めている。
- 4 各地種区分の位置付けは次のとおりとなっている。

特別地域	特別保護地区	公園の中で最も中心となる景観地であり、現状維持を原則とする地域
	第1種特別地域	特別保護地区に準ずる地域で、現在の景観を極力保護する必要のある地域
	第2種特別地域	良好な自然状態を保持している地域で、農林漁業との調和を図りながら自然景観の保護に努めることが必要な地域
	第3種特別地域	特別地域の中では風致を維持する必要が比較的低い地域であり通常の農林漁業活動について風致の維持に影響を及ぼすおそれがない地域
普通地域		特別地域と一体的に風景の保護を図ることが必要な地域

(資料) 環境局調べ

表4 県自然環境保全地域の指定状況

名 称	所在地	面 積 (ha)			要 件	特 質 (主な種等)	指定年月日
		特別地区 〔野生動植物保護地区〕	普通地区	計			
たのしりしつげん 田之土里湿原	豊田市	0.58 [0.15]	2.20	2.78	③	中間湿原(モウセンゴケ、サギツウ、ハツヨウトンボ)	1975.1.31
れんげじじそう 蓮華寺寺叢	あま市	0.32	1.89	2.21	②	自然堤防及び常緑広葉樹林(シャシャンボ、カシ)	1975.1.31
こまきおおやま 小牧大山	小牧市	9.32	36.74	46.06	①	常緑広葉樹林(シイ、カシ、タブ)	1976.10.15
あおとりやま 青鳥山	西尾市	1.62	—	1.62	②	はんれい岩地帯(ハツレイ岩、電気石)	1976.10.15
きちじょうさん 吉祥山	豊橋市 新城市	—	20.15	20.15	②	角閃石片岩(カクセンセキヘンガソ)からなる特異地質	1976.10.15
いくまじんじゅしゃそう 伊熊神社社叢	豊田市	2.63 [1.49]	2.12	4.75	④	針広混交林(コアダ、ユキササ)	1977.4.22
こづみにしいけ 小堤西池	刈谷市	5.83 [5.83]	—	5.83	④	カキツバタの群落(カキツバタ)	1978.3.24
おおぬま 大沼	豊根村	15.13 [15.13]	—	15.13	① ④	落葉広葉樹林(ブナ、アサダ)	1978.3.24
しろとりやま 白鳥山	設楽町	5.71 [5.71]	7.90	13.61	② ④	岩礫地特有の植生及び特異地質(水晶、コウヤマキ)	1979.3.2
ちはらざわ 茅原沢	岡崎市	—	14.36	14.36	④	落葉広葉樹林(ヒメシャラ、オオズミ)	1984.3.28
いっちょうだしちち 壱町田湿地	武豊町	1.13 [1.13]	0.10	1.23	④	湿地植物群落等(シロバナナガバノイシモチツウ)	1999.2.26
やまなかはしまんべう 山中八幡宮	岡崎市	1.55 [1.55]	3.95	5.50	④	常緑広葉樹林(ルリミキ、オオフクイゴ)	2004.2.27
かいしょのもり 海上の森	瀬戸市	48.60 [10.94]	79.25	127.85	④	貧栄養湿地の植生等(シテコブシ、サクラバナノキ)	2006.3.24
とうごくさん 東谷山	名古屋市	12.40 [12.40]	15.27	27.67	④	常緑広葉樹林(スダジイ等)、湿地の植生(シテコブシ等)	2010.4.2
とりでやま 砦山	豊根村	3.36	—	3.36	④	三河山間部の自然林(モミ、カガ等)	2010.4.2
計 15 地域	13 市町村	108.18 [54.33]	183.93	292.11	要件 ① 優れた天然林(10ha以上) ② 特異な地形、地質(1ha以上) ③ 自然環境が優れた状態を維持している海岸、湖沼、河川、湿原等(1ha以上) ④ 野生動植物等の生息地、自生地(1ha以上)		

(注) 1 2025年3月末

2 各地種区分の位置付けは次のとおりとなっている。

特 別 地 区	生態系構成上重要な地区、その他自然環境の特質を維持するため特に保全を図るべき地区
野生動植物保護地区	特定の動植物の保護のため特別地区内に指定する地区
普 通 地 区	特別地区以外の地区

(資料) 環境局調べ

表5 愛知県における希少野生動植物の状況

表5-1 「レッドリストあいち 2025」掲載種数の概要

評価区分		植物	動物	合 計
絶滅 (EX)		48 (50)	43 (32)	91 (82)
絶滅のおそれのある種		556 (529)	398 (364)	954 (893)
内 訳	絶滅危惧 IA 類 (CR)	132 (122)	126 (104)	258 (226)
	絶滅危惧 IB 類 (EN)	210 (194)	121 (117)	331 (311)
	絶滅危惧 II 類 (VU)	214 (213)	151 (143)	365 (356)
準絶滅危惧 (NT)		117 (116)	225 (218)	342 (334)
情報不足 (DD)		6 (3)	98 (89)	104 (92)
地域個体群 (LP)		—	4 (4)	4 (4)
国リスト		30 (29)	44 (49)	74 (78)
合 計		757 (727)	812 (756)	1,569 (1,483)

注：() 内は、「レッドリストあいち 2020」の掲載種数

表5-2 「レッドリストあいち 2025」植物の評価区分ごとの掲載種数

対象	評価区分 絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危惧 (NT)	情報 不足 (DD)	計	国リスト 環境省 レッド リスト 掲載種	県内 自生 在来 種数
		絶滅 危惧 IA 類 (CR)	絶滅 危惧 IB 類 (EN)	絶滅 危惧 II 類 (VU)	小計					
維管束植物	45 (47)	115 (105)	191 (175)	190 (183)	496 (469)	112 (111)	6 (3)	659 (630)	29 (28)	2,448
コケ植物 (小計)	3 (3)	17 (17)	19 (19)	24 (24)	60 (60)	5 (5)	0 (0)	68 (68)	1 (1)	618
セン類	0 (0)	16 (16)	15 (15)	19 (19)	50 (50)	5 (5)	0 (0)	55 (55)	0 (0)	443
	3 (3)	1 (1)	4 (4)	5 (5)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	1 (1)	175
計	48 (50)	132 (122)	210 (194)	214 (213)	556 (529)	117 (116)	6 (3)	727 (698)	30 (29)	3,066

注1：表中の()内は、見直し前リスト（レッドリストあいち 2020）の掲載種数を示す。

注2：国リストとは、環境省が2019年1月に公表したレッドリスト掲載種のうち、本県のリスト対象外と判定された種を示す。

注3：維管束植物の県内自生在来種数は「グリーンデータブックあいち 2017」（愛知県環境部自然環境課、2017）を基に新しい知見を加えて整理した。亜種、変種を含み、品種、雑種を除く。

注4：タイ類の県内自生在来確認種数は「グリーンデータブックあいち 2018」（愛知県環境部自然環境課、2018）による。

表5－3 「レッドリストあいち 2025」動物の評価区分ごとの掲載種数

対象 評価区分	絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危惧 (NT)	情報 不足 (DD)	計	地域 個体群 (LP)	国 リスト 環境省 レッド リスト 掲載種	県内 確認 種数
		絶滅 危惧 IA 類 (CR)	絶滅 危惧 IB 類 (EN)	絶滅 危惧 II 類 (VU)	小計						
哺乳類	3 (3)	6 (6)	4 (4)	4 (4)	14 (14)	11 (10)	1 (2)	29 (29)	2 (2)	0 (0)	74
鳥類	8 (3)	14 (13)	27 (25)	38 (29)	79 (67)	19 (17)	0 (0)	106 (87)	2 (2)	1 (5)	427
爬虫類	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	4 (4)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	16
両生類	0 (0)	4 (4)	4 (4)	1 (1)	9 (9)	5 (5)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	1 (1)	22
汽水・淡水魚類	0 (0)	9 (8)	9 (9)	9 (9)	27 (26)	6 (6)	7 (7)	40 (39)	0 (0)	9 (9)	199
昆虫類	21 (14)	38 (17)	31 (31)	32 (32)	101 (80)	93 (90)	30 (30)	245 (214)	0 (0)	23 (23)	10,617
クモ類	0 (0)	3 (3)	17 (17)	10 (10)	30 (30)	8 (8)	1 (1)	39 (39)	0 (0)	0 (0)	590
貝類（小計）	11 (12)	52 (53)	28 (26)	57 (58)	137 (137)	82 (81)	55 (45)	285 (275)	0 (0)	10 (11)	約 690
陸産	0 (0)	6 (6)	5 (5)	17 (17)	28 (28)	25 (25)	9 (4)	62 (57)	0 (0)	3 (3)	約 150
淡水産	4 (5)	5 (4)	0 (0)	2 (2)	7 (6)	4 (5)	9 (5)	24 (21)	0 (0)	2 (2)	39
内湾産	7 (7)	41 (43)	23 (21)	38 (39)	102 (103)	53 (51)	37 (36)	199 (197)	0 (0)	5 (6)	約 500
計	43 (32)	126 (104)	121 (117)	151 (143)	398 (364)	225 (218)	98 (89)	764 (703)	4 (4)	44 (49)	約 12,630

注1：表中の（ ）内は、見直し前リスト（レッドリストあいち 2020）の掲載種数を示す。

注2：鳥類については、評価対象ごとにランクが異なる場合は、最上位の評価区分とした。

注3：国リストとは、環境省が2019年1月に公表したレッドリスト掲載種のうち、本県のリスト対象外と判定された種を示す。

注4：県内確認種数は「グリーンデータブックあいち 2018」（愛知県環境部自然環境課、2018）を基に新しい知見を加えて整理した（クモ類及び貝類を除く）。

【評価区分について】

○絶滅：本県ではすでに絶滅したと考えられる種。

○絶滅危惧 I 類：絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。

絶滅危惧 I A 類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。

絶滅危惧 I B 類：I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。

○絶滅危惧 II 類：絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。

○準絶滅危惧：存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。

○情報不足：「絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」のいずれかに該当する可能性が高いが、評価するだけの情報が不足している種。

○地域個体群：その種の国内における生育状況に鑑み、本県において特に保全のための配慮が必要と考えられる特徴的な個体群。

○国リスト：環境省レッドリストに記載されているが、愛知県において上記の要件に該当しない種。

（資料）環境局調べ